

第二回我孫子北地区地域会議議事録

日時：平成29年9月24日（日） 13：30～17：00

会場：我孫子北近隣センター 多目的ホール

出席者：自治会・町内会・管理組合 26 （40名）：添付別紙①参照

事務局メンバー：14名

（社協、何んでも相談室、民児協：6名含む）

我孫子市市民活動支援課・市民安全課：4名

オブザーバー：2名

総計：60名

<司会・進行> 両事務局委員

1) 挨拶：

① 事務局長

* 第一回の地域会議を5月に開催し、その際アンケートを実施したが「防災」が共通認識となっていることが確認された。そのアンケート結果を踏まえて今回は「防災」に絞ったテーマでの第二回地域会議を開催することとしました。

* 実はここで困ったことに気がついたのです。それは何かと申しますと、防災に対する気づきが自治会の間で思った以上に差があることです。

このギャップを解消しておかなければ今後必要になる情報の共有化の妨げになると言う事です。しかし今現在の自治会のギャップは解消不能のレベルではありません。

* 出席された方の一部では、またかという感想をお持ちの方もおられるかも知れませんが、今回の会議では市からは市民安全課の職員に来てもらい、我孫子市での防災がどういう状態かを十分説明して頂きます。その後参加者の皆さんで「防災とは何ぞや」という観点より打ち合わせし、皆さんが「防災」に関しての認識を深めて貰えれば第二回地域会議の目的は十分達成できた事になると思います。

* 其の上で参加者皆さんが会議の内容を自治会に持ち帰り十分自治会の皆さんと話し合いして貰えればと考えております。

今日一日意義のある会議になります様によりしく願います。

② 市民活動支援課長

我孫子市では平成25年10月に地域コミュニティ活性化基本方針を作成し市を11地区に分けて地域会議を設置するように活動しております。

北地区では今年から第五番目の地域会議として開催され市として嬉しく思っているところです。本日は防災に関するテーマでの意見交換でその為の基礎情報として市民安全課の職員から我孫子市としての取り組みを十分お話しして貰います。どうかご参考にして頂き北地区の防災対策に役立つことを期待して居ります。

2) 講演

市民安全課より「災害に備える」という題目で約70分の講演をいただいた。

(注：講演資料は膨大でこの議事録には添付してありません)

(議事録作成者コメント：講演の内容に関して参加者から好評で、我孫子市の対応策が良く理解できたとコメントを頂いた。講演時間が若干短く講師では十分説明出来なかったポイントもあったかも知れないが、簡潔明瞭で参加者の理解が深まったと思われた。)

3) 意見交換に向けての補足説明

事務局委員より 市民安全課の講演のフォローアップとして下記題目をパワーポイントで説明を行った。

- ① 大地震、関東～四国、高い確率ケイゾク震度6弱以上、17年版予測地図
- ② 我孫子市の消防力(現状)
- ③ スタンドパイプとは(地域住民が出来る初期消火対応策)
- ④ 耐震シェルターの活用も!(最低限、自身や家族の命を守るために)
- ⑤ 避難所収容人員(我孫子市北地区)
- ⑥ 在宅避難という考え(住み慣れた場所で被災後の生活を送るために)
- ⑦ 災害時は、市職員も被害者!(市民のボランティアで出来ることを!)

(議事録作成者コメント：我孫子市からの全般的な説明を受けた後、北地区を中心とした市の現状と実際面での対応策についての説明で参加者の理解は更に深まったと思われた。)

4) 意見交換会(グループ討論)

グループ討論では、以下の4グループに分かれて、各自治会から、

- ①自主防災組織・体制、 ②避難行動要支援者への対応体制、 ③安否確認の実施方法・体制、
- ④自治会での備蓄品、 ⑤各家庭の自助力向上として自治会でしたことやしていること

などの現状を披露し、運営上の苦労話、問題・課題点などについても質疑応答を交え、情報交換を実施した。

グループ	討論参加自治会等 (敬称略)
A	つくし野西/つくし野南/つくし野中央/天子山
B	都/菱田/城下/ダイアパレス/並木/並木七丁目/並木八丁目/並木九丁目/妻子原
C	我孫子中央/学園通り/ロータリーパレス我孫子/あびこ
D	松園/シティア/けやきの丘/新生/グランレジデンス/セントラルコート我孫子/アクアレジデンス

※各グループとも、他の自治会の防災活動の実施状況や運営上の苦労話や悩み、問題・課題などを知ることができてよかったとの感想が多くの参加者からあった。

※さらに、今回のグループ討論からの問題・課題については、引続き、深掘りしていきたいとの意見も出された。

今回のグループ討論の概要は、以下の通り。

<p>①自主防災組織・体制では、</p> <ul style="list-style-type: none">・組織は殆どの自治会で出来ているが、高齢化率の高い自治会では役員へのなり手が見つからず、このままでは組織・体制を維持できなくなるという悩みを抱えている。・・・【問題】
<p>②避難行動要支援者への対応体制では、</p> <ul style="list-style-type: none">・要支援者の把握は殆どの自治会で必要性を認識して行っているが、市から希望自治会に提供される要支援者情報を受領している自治会は少ない。受領しない理由として、受領情報の管理負担が大きい と感じられている・・・【課題】
<p>③安否確認の実施方法・体制では、</p> <ul style="list-style-type: none">・殆どの自治会で安否確認の実施方法や体制を決めて訓練は行っている。特に、安否確認の実施方法では、玄関先へのタオルやマグネットシールの掲示を行うなどの工夫をしている自治会が多数あった。・・・【水平展開として推奨】・しかしながら、地域内にいる方々の構成と人数が大きく異なる平日と休日、昼間と夜間のどの場合でもスムーズに安否確認ができるように、安否確認実施の契機、役員不在時の確認と報告は誰かまでを決めている自治会は少なかった。・・・【問題】・また、避難行動要支援者、独居老人や老老高齢者だけの家などの災害弱者を含め、未確認者の対応はどこまで行うのか方法を決めている自治会も 少なかった。・・・【課題】
<p>④自治会での備蓄品では、</p> <ul style="list-style-type: none">・水、食料は一部のマンションを除き、自治会での備蓄はせず、各家庭の備蓄(自助)としている。
<p>⑤各家庭の自助力向上として自治会でしたことやしていることでは、</p> <ul style="list-style-type: none">・各家庭の防災意識を高めるために、飲料水食料等防災品チェックリストの配布、消火器やAEDの使い方訓練、炊き出し訓練、防災センター見学などを実施している自治会があった。また、防災冊子を繰り返し発行している自治会や、消火器・火災感知器・簡易トイレなどを販売している自治会もあった。
<p>⑥その他として、</p> <ul style="list-style-type: none">・訓練参加率は大地震直後に対し半分以下。参加率を上げるにはどうしたらよいか、との悩み・・・【課題】・「合同防災訓練」実施の提案・・・【課題】・避難所運営イメージを掴んでおくために避難所運営訓練が必要では、との提案・・・【課題】・大地震経験地区の自治会を講師に招聘し、勉強会を実施しては、との提案・・・【課題】・我孫子地区のマンションの防災会は互いに情報交換し、学びあってお互いが向上するという好循環があるようだった。・・・【好事例】

*事務局より各グループでの意見交換会が行われる前に、事前に配布されたチェックリストに自己評価を記入してもらい、そのリストも参考にしながら各グループで自由・活発な意見交換が出来る様をお願いした。尚お茶と簡単なお菓子を用意。

各参加者は 吊るし名札で各自のお名前が判る様に準備された。

5) 防災チェックリストの分析結果

(10月5日に事務局小委員会メンバーにより下記分析結果を確認した。添付別紙②参照)
今回参加された26自治会・町内会・管理組合でチェックリストに○・△・×で記入してもらったものを点数化した。(○2点/△1点/×0点)

その結果：

- a) 組織や形態はまあまあ出来ている
- b) 組織の行動マニュアルや 防災への全体計画が出来ていない
- c) 実際の災害時の緊急行動に対する計画やマニュアルが出来ていない。
安否確認だけが何とか出来ているが。

尚個人ベースでみると

- a) 家の耐震性や家の中の危険対策はまずまず出来ている模様。
- b) 地震時の家族の行動や安否確認はもう一歩か。
- c) 水・食料の備蓄・消火器の準備は大体出来ている
- d) 簡易トイレの準備は不十分

6) まとめ

ア) 今回の地域会議で「防災」に関しての各自治会の認識のレベルはかなりアップされたのではないのでしょうか。 但し組織や考え方は理解したにしても 実際に行動計画が何処まで実施されるかが更なる課題と思われまます。

計画が実際に実施できるようなマニュアルをつくり、それを実践できるように不断の訓練が必要になると思われまます。

イ) 今回の意見交換の中身を良く事務局で分析し第三回の地域会議に繋げていきたいと考えております。

ウ) 次回は 平成30年1月21日(日)を予定しています。

以上